

期 昭和六十年一月十四日～二月五日
於 図書館三階閲覧室(本館)

武家故実女礼伝書

鎌倉幕府以後、武士階級が支配者層になることによつて、武家作法は、人間形成の表現として、また伝来された故実・処世法を規範とする武士相互間に於ける秩序を目的として作りあげられた。伊勢、小笠原、今川の三家が合議し、「三議一統」を室町期、足利義満の命により、伊勢、小笠原、今川の三家が合議し、「三議一統」を選り、作法の存続につとめた。しかし戦乱期でもあり、武家作法は武家支配の安定期をむかへた江戸期に形式化がすすみ、重んじられることになる。武家作法は武家支配の武家の多くは、当初伊勢流に倣っていたが、元禄頃から小笠原流諸礼が隆盛をみせ、伊勢流は非実用化してくる。女性の礼儀作法(女礼)を中心とした、伊勢・小笠原流諸礼伝書を紹介する。

(1) 女礼進退記

写本一冊 半紙判 十二行書き 絵図入り 奥書なし 墨朱注
御手水かけのような事などの作法書であり、御礼申上様の事、御文受取渡しの事、

(2) 伊勢家女礼伝書

写本二十九冊 美濃判 六行書き 図入り 明和八(一八五二)安永二年(一七七一)一七七三(一八五二) 河北吉二郎伝授 下村氏 嘉永五年(一八五二) 柳下軒祐升識語

内容は、惣目録・女中四季小袖之事・手鑑 乾之巻・婦人衣裳替之口伝・伊勢家用女礼法量口伝・女礼目録・伊勢家用女礼式部・当流女礼口伝書 上・中・下・伊勢家用女礼式法目録・伊勢家用女礼口伝書一(十)などで、伊勢流の女礼の叢書である。

(3) 書札法式

写本一冊(上・下) 美濃判 九行書き 題簽「古礼書札法式」 頭注あり
上原定宣、水島卜也等連署奥書 伝写奥書なし 文例を掲げて伝授するように
なつた。

連署者の一人、水島卜也(一六〇七～一六九七)は、江戸初期の小笠原流
礼法家で、天和元年將軍綱吉の子徳松元服の時、堀田正英の命により、その
白髪を献じ、名声をあげた。元禄十年八月十四日没 九十一才。

(4) 化粧眉作口伝

写本一冊 十八糰 彩色図入り 「文化・文政頃写」 伝授奥書 水島卜也・根岸
東左衛門・志茂清左衛門の化粧法について書かれた小笠原流の口伝書である。
伝本は、国立国会図書館・静嘉堂文庫・関西大学(文政八年岩崎美隆写)。
大東急記念文庫(江戸末期写)などの諸本がある。

(5) 懸物図鏡

西村知備著 美濃判 彩色図版 無刊記「文化三年(一八〇六)跋」
版本一冊の花鳥を組み合せ、七月は女郎花と鶺鴒(かささぎ)という様に、組み合
は、常夏(なつな)なでしこ)と鶺鴒、七月は女郎花と鶺鴒(かささぎ)という様に、組み合
わせたものと思われ。版本ができるほどなので、江戸時代、相当行なわ
れてきたものと思われ。